

会 議 録

1 会議名

平成26年度第2回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成26年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成26年5月14日（水）午後6時00分～午後8時00分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員： 青山恭造、池田伸吾、泉 秀夫、伊藤邦雄、今井不二子、佐藤光司、
竹内明美、田村利男、田村雅春、冨塚 毅、中澤武志、増田利昭、
町田隆之、三上正子（欠席3名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、滝澤係長、星野主任

8 発言の内容

【関川センター長】

只今から平成26年度第2回直江津区地域協議会を開会します。本日の出席人員は、14名です。上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立していることを報告します。はじめに増田会長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

【増田会長】

皆さん、お疲れ様でございます。若干、間が空きましたが、また審査の時期がやって

きたなというのが私の正直な感想でございます。皆様方にはいろいろと大変なことと思いますが、ぜひ、一つ一つの審査をよろしく申し上げます。以上です。

【関川センター長】

ありがとうございました。

それでは同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることとなります。増田会長をお願いします。

【増田会長】

それでは次第に沿って進めてまいります。11件の提案がありその内、かなりの部分が継続の案件だということもありますので、概ね1時間半を目標に進めていきたいと思っております。本日の会議録の確認ですが、町屋委員と三上委員に申し上げます。

それでは、さっそく議題に入ります。「平成26年度地域活動支援事業について」事務局から説明申し上げます。

【滝澤係長】

—資料No.1 「平成26年度直江津区地域活動支援事業提案書受付一覧」
に基づき説明 —

【増田会長】

ありがとうございました。今、概略を説明していただきましたので、資料も事前に配付されていることから、大まかな内容はつかんでいると思います。これより1件ずつ協議していきたいと思いますが、ポイントは何かといいますと、提案書を読んで、ここの中身がよく分からないというのがあれば、もし知っている人が居れば答えてもらいたい。ここにこう書いてあるけど、どういうふうに考えたらいいのだろうか、この考え方はどのように考えたらいいのか、という観点から出していただいて。要は自分が採点する時によく分からないというものについて皆さんの意見を聞いていくというふうにしたいと思っております。それから、採点にあたっては、継続分については報告書をいただいておりますので、報告書を良く見ていただいて、中身が変わっているか変わっていないか、あるいは、報告書を見て成果があったのか、無かったのかという部分を見比べながら検討していただくと。金額についても、継続のものについては減ってきているのか増えてきているのかというのも一つの観点かなと思います。それは、採点の時に見ていただくことにしまして。この時間は、この部分をどう考えたらいいかというような観点に絞って意

見交換をしたいと思っております。

では、さっそく番号順にいきます。「1. クリーンナップ上越 in 五智事業」について御意見のある方どうぞ。提案者への質問は、去年と同じように文書で質問を提出していただき提案者に回答をいただき皆さんへお配りする。ということになっておりますので、それを前提に質問をお願いします。

【町屋委員】

以前にも言っていたと思うんですけど、会長のお話の中に事業報告が出てるんだから報告を見ながらするよというのがあったので言いづらいんですが、例えば、継続している事業、これは何回目だからねっていうのは事務局からもあったんですけど、そうであればこれは何年と何年と何年に出て、その時にこういうふうに来ているよ、というのが、やっぱりこれを見てそれを知りたくなるんです。皆さんもそうだと思うんですけど。例えば、ひまわりを例に挙げると、ひまわりの種は回収してまたひまわりを植えられるようにするんだよ、みたいなのがあったじゃないですか。今まで機材もいっぱい使って、継続出来る事業っていう部分に関して、例えばこれが無くなったら継続出来るのかなとか、随分と回数を重ねてきているよなっていう中で、その部分っていうのはどのように判断するのかなと。継続してきているから別に大丈夫でしょっていう部分と、継続しているからこそ、いつになったら自立できるのかという部分もあるのかなって、事業報告見ても、その辺りは触れていないんじゃないかなっていうのが強いんですよ。そういうところの判断はどうしたらいいのかと思います。

【増田会長】

関連して意見ありますか。

町屋委員が言いましたように、継続しているからよしではなくて、継続なんだけども費用対効果も出てるかっていうのはきちんと検証しなければならない。

他の皆さんいかがですか。報告書を見ながら質問をしていただくと。例えば、この補助金が無くなったらどうしますか。いつまで、どういう計画でやるんですか。そのことはしっかりと書いていないし、去年の種を利用するみたいなことも意見で出てまいりましたので、それはどの程度したんですか。というのが質問項目になると思いますのでよろしくをお願いします。他、ございませんか。

(意見なし)

それでは「2. 米作り体験事業」について、これは滝澤係長から話がありましたように去年は、申請は無かったのですが、その前の年に提出された事業です。御意見ありましたらどうぞ。滝澤係長が言ったように、取組んでいるのは一町内だけれども、近隣の町内に声をかけてやっているんだという説明がありましたのでそこら辺がポイントかなと思いますけど。

【町屋委員】

皆さんの御意見をお伺いしたいんですけど、受益者負担についてですが、その中で例えば、何とか教室だとか棒体操だとかっていう時にお金をもらっている事業と、もらっていない事業がありますよね。そこについて皆さんはどうお考えになるか。それで、この場合であると、自分たちが作る米ですから、一生懸命作るってイベントをやるのはいいのですが、最後、これを食べるって時に材料費から全部かかるわけじゃないですか。それに関して全部提案が上がってきているんです。無料で振舞っているということですよ。それが私の中では釈然としないんです。皆さんはどうお考えになるかお聞かせ下さい。

【増田会長】

意見ありましたらどうぞ。

【青山副会長】

今年の春、餅つき大会を実施された時に参加してきました。参加費は無料でした。子どもが杵を持たせてもらったりとかして喜んでました。最近、町内会等で餅つき大会というのは少なくなってきましたね。だからいいんじゃないですか。

【竹内委員】

食べたものの材料費はどうしていたの。

【青山副会長】

分かりません。

【町屋委員】

どこどこのイベントでよく振舞い餅ってありますよね。あれは目的があって振舞うわけじゃないですか。その振舞うお金を負担する人がいらっしゃるわけですよ。それはそれで構わないですよ。でも今回はその費用が全部見積もりに載っていますので。

【青山副会長】

去年は、提案していなくて振舞っているわけですよ。

【町屋委員】

それはよかったですねってだけですよ。

【青山副会長】

できればそうしてもらいたいんだけど。

【泉委員】

要するに、片方では受益者負担でお金を請求し、片方では何にもなしよと。そこをみんなで考えるんだよということですよ。

【増田会長】

受益者負担の考え方も、さっきのバスも、バスに乗っていくんだけど無料だからって、それでいいのかっていうのがあるんだけど、それはそれなりの考え方があると思いますんで。

【青山副会長】

大勢集まってもらいたいってことです。

【増田会長】

大勢集まってもらいたい時は、参加費を無料にするという考えがあってやっているんだと思います。内容が違えば、例えば何とか教室で同じ人は年間ずっとやっているんだけど、先生の授業料を出してあげるみたいなのは、まさに受益者負担が必要ではないかと。

【泉委員】

私の受益者負担の考え方ですが、団体のどうのこうのというよりも、団体そのものを伸ばさなきゃいけない。そういう時程参加人数を多くしたいからなるべく参加費を取らないというところでは受益者負担はゼロでも良いと思いますが、ある程度、会が成り立つというような状況になってくれば、それはちょっと考えてください、というふうに私は考えている。基本的には採択されたものが大きく育って継続してもらうのが我々の思いですから。

【今井委員】

私は、中身にもあると思うんです。子どもに体験させたいということであればあんまり参加費を取るといのはいかがなものかと思うんです。やっている中身について違っ

てくると思うんです。この場合、私はそこまでしなくても、しかも収穫した米で餅を作るっていうことですから、かなり意味があると思うのであまり固く言わなくてもいいんじゃないでしょうか。

【町屋委員】

そういう事業であれば、民間でもあるわけですよ。そういう所って結構なお金を取ってるわけですよ。それに比べたら無料でやるなかにおいて、今、若い団体の成長にはそういうのも必要だよという話もあったんですけど、そういう団体だとは思ってないわけですよ。この事業自体が昔からあって、公益性というものを前面に打ち出して形を変えてきたものであるのに、結局、町内会から100円出します。という話になっているので。先程、副会長から「私は行ってきた」と話があったように、それは広く還元されてきている部分に関して、実際問題としては餅をつくにあって、豚汁付けます。あれも付けます。だから皆さん来てください。というのはいいのかなという部分があったので聞いてみたんです。

【増田会長】

他にないですか。

(意見なし)

では、次にいきます。「3. 春日山・棒体操保存会事業」についてですが、先程、滝澤係長から説明がありましたように講師の謝金分は参加者からもらっているということになっております。そこら辺を踏まえて聞きたいことがありましたらどうぞ。あと、報告書の中に参加人数が何人と出てますから、22回やっている中で1回9人くらい、その中で継続の人と、新人の人の区別が書いてなかったから分からなかったんですが、そこら辺はどなたかが質問していただければいいかなと思います。

【泉委員】

この説明の中で、体操という捉え方で今の説明を受けたんですが、健康増進というところでもって随分と活動されているはずなんですよ。そこについてはこの中にあまり大きく言われていないんですけど、説明者側もそういうことだったんでしょうか。

【滝澤係長】

健康増進というのは事業の目的等にも記載されていますが、まずは、保存、普及が第一の目的とお聞きしています。

【竹内副会長】

説明の中で、チラシの配付について、小学生に配付するとおっしゃっていました。誰に配付するんですか。

【滝澤係長】

今回、踊り方のマニュアルを皆様に示したいということで、例えば、講習会や、学校など、その都度、色んなところで配付したいということです。

【田村雅春委員】

チラシは適当に配るのではなくて、講習会とか、学校に指導へ行った時に配るということなんですね。

【滝澤係長】

そうです。

【町屋委員】

さっきの話と反対側のアプローチになるかもしれないけれど、まず、消耗品ってあるじゃないですか。確か、去年も消耗品と記載があったんです。これはなんですか。と聞いた時にその説明は受けています。私は、棒体操というのは知らなかったんですが、去年、その事業の後にいろんな人に聞いて確かにある世代だけはみんな知っているんです。果たして消耗品なのかなっていう部分があって、これは科目が違うんじゃないですか。もっと言うと、これは備品として10本なんて言わないで30本でも40本でも、これが普及するんだったら用意をしてもらって、且つチラシも2,000枚じゃなくて3,000枚でも4,000枚でも小中学校だけではなくて各家庭に配付するように作ってもらっても構わないと思います。さっき言ったように、その代わり講師への謝金と会場費は参加した人が出せるなら出してもらおうというのがいいと思います。もっと広めたいという思いがあるのならもっと増やしてもいいと思います。

【増田会長】

ありがとうございました。では、「4. モーターサイレン更新事業」について防災危機管理課と事前協議となっていますが、先程、事務局から聞いたところによりますと、防災危機管理課の見解を別途いただくことになっていますので、来たら皆さんへお配りするという事です。防災危機管理課がどう考えているか今のところ分かりません。

【田村雅春委員】

防災だから非常に深刻だと思うんだけど、うちの町内も防災のサイレンが聞こえないんです。資料を読んでいると聞こえないと書いてあるんだが、音は同じタイプでいいんですか。

【泉委員】

この話をした時に、安物を使わないでもう少しいものを使った方がいいんじゃないかと思ったんです。今、国全体がそういうふう動いているんですよ。このサイレンについて言うと僕も大きいものを付けたいと思っていたんですけど、防災危機管理課はようやく上越市内全域に防災無線を設置し終わったと。なので、更新ということについては考えられない段階です。というのが一昨年くらい前の話だったんです。今、言われたように、今あるサイレンは、近いと大きくて遠いと小さくてっていうものなんです。そうじゃなくて遠くても近くても1台で同じ音っていうものが主流になりつつあるんです。

【田村雅春委員】

うちの町内は石橋2丁目に付いてるけど聞こえない。ただ、防災無線があるからいいってことなんだけど、その辺どうなのかな。

【泉委員】

私は、こういうこと自体が提案されることはありがたいと思っているんです。我々が危機管理についてどこまで重要に考えるかってことですよ。

【増田会長】

それもありますし、市が市民の防災に関してどう考えるかという一番基本的なことがありました。たまたま、市之町が自前で付けたのが故障して動かなくなったから交換したいという話なので。そのことで、すべて町内でやりなさい。ということでもいいのか、これからは、日々の安心・安全を考えた時に少し優先的に予算を付けて充実していかなくちゃいけないのかというところがありまして、非常に悩むところです。

【泉委員】

例えば、このあと福島城の話もそうですが、実は我々の事業も、市がやるべき仕事を我々がやってきているだけなんです。とりあえず、我々のところで出せる事業でもって補填しながら、危機管理を上げてもらうような。今おっしゃったように、市そのものが危機管理についてどういうふう考えているのか、100%考えたらまず、最優先され

るはずですよ。ただ、いろんな諸事情があったならば、直江津区として危険度が高い。我々が逆に市にアプローチしたらどうでしょうか。

【増田会長】

行きつくところは地域協議会として防災危機管理課に対して考え方を聞いて、市として最優先としてやるべきではないかという意見書を出す案件だろうと思います。市から他人任せな回答が来たとすると「この回答は違うんじゃないか」と言えると思うんです。それは回答が来た時に見せてもらって私なりに再質問しなければならなかったら再質問しようと思ってます。それを踏まえた上で、そうは言ってもとりあえずという部分が出てくるのかなと。いろんな文化のこととか観光のこととか、市はお金が無いと言っているんで、これやってください。と言ったって3年かかりますと言われる。そうすると市民生活は成り立たないので、私たちはとりあえずなんとかしましょう。と判断してきた部分がありますので、そこら辺が一つのポイントかなと思います。

【伊藤委員】

今、こういう事例が出たので、うちの町内も、一昨年の方の寺泊の方の土砂崩れで夜中に大変なことがありましたね。それを教訓にして半鐘塔を付けたんです。こういうことが認められるということになればうちの町内にも。市で30万という補助があるんですよ。そういう中でも町内よっては申請すれば出来ただろうと思うし、我々は30万使ってしまったから自前でやっているのが事実です。サイレンだと家の中じゃ聞こえないということから半鐘が一番いいということで購入しました。

【滝澤係長】

先程の担当課の考えということで説明させていただきます。それぞれの事業で関係する課がある場合につきましてはそれぞれの課に所見を求めています。その所見につきましては採点に間に合うように求めておりますので、一覧表に所見を付け加えた形で皆様に配付します。

【中澤委員】

こういう問題も扱い方なんですけど、市からどういう所見が来るのが望ましいのかわかりませんが、市が自分たちでやりますから町内会は手を出さないでもいいという所見がくるわけじゃないですよ。本来、市がやるものだから町内に金を出してはいけないということもまた、おかしいんだよ。止むに止まれぬということを考えれば、こういうものは

最優先に支援すべきだなと思うんです。うちのところにもサイレンはありますが、ほとんど聞こえない。だけど、防災危機管理課の捉え方としては防災ラジオを各戸に配布したと。それで、一応は整備したと。という立場なんです。ただ、みんながみんな、災害が起きた時に家にいるかっていう問題ですよ。やっぱり、安心・安全というものを第一に考えていかなければいけないという立場に立てばこれを認めていって、市がやらなければ町内でやっていったほうがいいかなと私は思います。

【佐藤委員】

防災関連は地域として非常に関心が高いわけですよ。それは町内の責任として、やるかやらないかっていうのは。補助金の制度があった時に、いかに乗っかるか。その中で自分たちの町内に必要なものを手当てする。各町内に何でどれくらい必要なのかきちんと冷静に判断していければなど。それで予算が無くなったら市の防災危機管理課に聞く。お金の問題が絡みますから。

【増田会長】

過去に私のところでもありまして、そういえばこれが不足している、あれが不足していると出てくる場合がある。それをどうするか。高田の方ではLED化にしたいって、全町内からLED化にしたいって出てきたらどうしようと悩んでいるんですけど。そういう自体になりつつあるので、そこら辺は地域協議会として対処しなくてはならないと思いますけど、緊急対策としてどうするかという観点から採択した経緯があります。

【町屋委員】

この地域協議会が始まった時から旧町村の人たちは、やっぱり地域事業費が削られている中においてもこのお金を使うべきだと、何故かと言えば、自分たちにとっては必要だけでも市全体からすれば優先順位が高くないってというのがやっぱりあるわけじゃないですか。ここにおいても必然として今回のサイレンの件はそれにあたるかと思うんですけど、全市的にしてもそんなに低くされては困るような問題だと思うんですよ。まずは、防災危機管理課の所見を待つ。直江津区にとっては緊急性が高いけど他の区にとっては緊急性が高くない問題もいっぱいあると思うんですけど、今回の件に関しては、そういう取扱いをすべきものじゃないくらい緊急性が高いと思います。

【増田会長】

他によろしいですか。

(意見なし)

次は「5. 直江津地区民謡こども教室事業」について。これも継続です。よろしいですか。

事務局にお聞きしたいんですが、講師謝金、2時間で3,500円と上げていますが、受益者負担の考え方が出ていないんですよ。それについて考え方等ありましたらお願いします。

【滝澤係長】

講師の金額につきましては、Q&Aに目安として載っています。受益者負担については、傷害保険に係る分については参加料として集めています。

【増田会長】

ありがとうございました。冒頭申し上げましたとおり、継続事業については成果を示す報告書が出ておりますので、それと見比べをしていただければと思います。他によろしいですか。

(意見なし)

次、「6. 旧直江津銀行活用社会実験事業」について、一応、5月～11月までそこでイベントをやりますというチラシやポスターを作ってやっていきたいということです。よろしいですか。

【田村雅春委員】

よく分からないんだけど、常に縁起堂なんですよ。なんか意味があるからだと思うんだけど。ほとんどの物品・飲食が縁起堂になっていて、ある意味特定の店だけなんですよ。これが引かかるな、と思いました。

【増田会長】

もし皆さんでそういう御意見がありましたら、聞かせてください。

【中澤委員】

よく分からないんですけど、確か縁起堂も支援を受けて造られたところなんですよ。今は自立したんじゃないかな。やっぱり自立すべく何らかの形で支援していかないと。あとどれくらいかで補助金も打ち切られるので。そういう関係があるんです。だから、一体となっているんです。

【増田会長】

県の補助金が出ていて、確か3年間だったと思いますけど。他の皆さんよろしいですか。

【町屋委員】

先程の謝金についてこの金額が妥当かどうかというような議論があったかと思いますが、これに関しては、尚、そう思わざるを得ないなというのがあるんですよね。皆さん、金額性が妥当か云々というのはどうお考えでしょうか。

【増田会長】

市の規定上は大丈夫なんですね。

【滝澤係長】

基準と言いますか、目安という形で、例えば生涯学習の講座でしたら、どの程度という形でお示しはしていますが、それぞれ、出演される方により違いますので、今までも講演会等であったかと思いますが、イベントの出演団体となりますと、普通の講師ですとか作業員とかとは違いますので、一概には言えません。

【増田会長】

規定上は大丈夫だと。ただ、8月3日の「浴衣を着た煎茶教室の子どもたちがお運びしてくれるお茶席です」という所の金額が5,000円×5名＝2万5,000円ということは子ども達に5,000円あげるのかなというふうに捉えたんですけど。

その場で、一応の目安はありますが、世間相場でというものは認められているので、高いとか安いとか一概に言えないと思います。

【町屋委員】

でもこの事業に関して言えば、先程、本来であればこれも市が行う事業だという部分でもありましたが、確かにそれもそうだなという部分もあるんですよ。例えば、無償でやるようなイベントがいっぱいあって、そういう部分に関してそのお金で、そこに告知する為のチラシとかポスター等っていうのは何の問題も無い部分だと思うんですよ。ただ、この提案に関してはそうじゃない部分があるなど。これはもう始まっている事業なんですよ。通らなくてもちゃんとやるんですよ。そのお金はどこから出てくるのかなっていう。そういう部分はちゃんと担保されているんじゃないの。とまで思ってしまいうくらいな感じでいっぱいいろんなお金がかかっているの。お金がかかる部分に関しては参加者から集めて、それはなんの問題も無いんじゃないかなと。以上です。

【増田会長】

他の皆さん、よろしいですか。

【中澤委員】

ライオン像の建物をまちづくりに活かす会。ライオン像の家っていうのはほとんど死んでるように思うんです。だからこういうことをやらないといけない。結局はそれを保存する為にも知ってほしいという意味合いを込めてイベントを盛り上げていかないといけないんで。別に儲けようとしているわけじゃない。というところを抑えておかないと。

【増田会長】

では、次いきます。「7. 旅情のまち日本海・直江津まちあるきガイドマップ事業」について、いかがでしょうか。

【田村利男委員】

提案書の中の「配布先及び配布部数」の中の旧直江津銀行に3,000部、ライオン像の建物をまちづくりに活かす会に3,500部。合わせて6,500部。全体の約3分の1なんです。この2つはほとんど同じだと私は思うんです。前は1万部だったんです。これを2万部にする理由が、いかにまちづくりであろうと私は分からないと思っています。

【泉委員】

去年、このマップを全国に配った経緯があるんですよ。たまたま、全国から人を集める機会があったものですから。上越をアピールする為に観光パンフレットを集めたんです。高田はあるんですが、直江津が無かったんです。結局、直江津が無くてこちらの会に頼んで、かき集めてもらって配付した経緯があります。今言われたように確かに前は1万部だった。2万部の根拠は分かりませんが、1万部では足りないんですよ。

【増田会長】

今言っているのは、泉委員が必要な時に足りなかったので必要なところに置くように手配してください。というスタンスかどうかは質問で聞いた方がいい。

【田村利男委員】

保管ということなら、あってもいいんじゃないかな。

【増田会長】

部数を見ると「活かす会」にこれだけの部数が保管されているよ。という意味合いが

数字に出ていると読み取れると思います。

【町屋委員】

ここで云々よりは、質問なりすればいいのかと思いますけど、実際、ここに書いてある配付先って、直江津駅に1,000部一気に持っていくわけではないだろうし、持って来られても直江津駅も困るでしょうから、一度における数は20部、30部でしょうから、それを切らさないように、これだけのお金をかけてやる事業ですから、切れていれば別のところに行けばあるという状況はきちんと作っていただいて、そこまでしてもらっての事業なのかなっていうふうに解釈すれば問題ないんじゃないかと。

【池田委員】

関係無いのかもしれませんが、ガイドの地図が旧直江津のような感じなんだけど、五智と国府を含めたようなガイドマップの方が外から来た人たちには親切だと。五智地区と旧直江津地区の方が近くて一緒に歩けたり、バスで回ったり出来るのに。1つ1つのスポットで詳しい地図も必要ですけど、もう少し発展できないのかなというのを前にも意見を付けて出したことがありますけども、なかなかそうならないことが残念に思います。

【佐藤委員】

やっていることは凄くいいことだと思うんです。もう一つ関係あるのは「直江津地区賑わいづくり事業」が同じような事業なのでこれと連携出来ないのかなと。池田委員が五智のことを言ったので。団体が違うから一概に言えないけど。同じ直江津で作るのに2種類も3種類も不自然じゃないかなと思いました。

【田村雅春委員】

今「直江津地区賑わいづくり事業」に触れていて、私も文章を読んで感じていたんですが、直江津区っていうのはどういうことを指しているのか。池田委員が言ったように五智が入っているのか入っていないのか、違う団体がそれぞれガイドブック作ると同じようなガイドブックが出来るんじゃないかと思っちゃう。「直江津地区賑わいづくり事業」を見ると善光寺浜が入っているから、提案書を読むと37町内ってなっている。37町内ってなると五智も入る。そこら辺の整合性が無いなと思いました。

【滝澤係長】

今のマップの件。確かに受け付けている段階でマップがいっぱいになってしまうなど

思い、提案者の方にも少し話をさせていただいていますが、まちあるきガイドマップにつきましては、直江津のまちあるきを活性化したいというのをメインにしております。広い範囲になれば1枚のマップにすればいいということもありますが、提案者からしてみますと自分たちが思っている提案内容とまったく違って来る。まちあるきをしてもらいたいという気持ちでやっていらっしゃるので、同様なような団体がいるのも分かっているんですが、自分たちの趣旨で提案されているということです。後ほど議論があるかもしれませんが、「直江津地区賑わいづくり事業」につきましては祇園祭が地域の核だと考えております。この祇園祭をメインにしたマップで、これで人を呼び込みたいんだということで、またまちあるきとは違ったマップになってくると思います。

【増田会長】

分かりました。他、よろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、次「8. 福島城の顕彰事業」についていかがでしょうか。

【町屋委員】

今日、ずっとテーマになっている市がやるべきことだという部分の延長線上になるんですけど、リースはどれだけですか。リースっていうことは期限があるんですよね。

【滝澤係長】

リースは、3月31日までです。

【町屋委員】

3月31日まで、とりあえず担保するだけでいいのかっていうのは非常に思います。多少、今年が一番お客さんが来ると思っているかもしれませんが、それであれば続くようなものを目指してほしいなと思います。全市的に見れば度合いは低いだろうけど直江津してみれば大事な問題だと、観光面に関して言えば大きなトピックだと思います。

【池田委員】

高田の図書館にジオラマと地図が展示してありまして、よく出来ていて、再認識したんですが、仮設資料館という形になっているのは少し物足りないような感じがするんです。イベントに合わせてあまりお金をかけないで応急的に作ったんじゃないかなと。これから一つの遺跡の大事なスポットとしていくのに仮という程度でいいのだろうか。もっとしっかりしたものを作って、上越市直江津区をしっかりPRしていくのに大事など

ころじゃないかなと感じがします。仮という言葉が付いているのが気になるんですけど。

【増田会長】

他の皆さん、いかがですか。

【泉委員】

資料館の話が出ました。古城小学校を目途にいろいろと模索しているんですね。

【増田会長】

わかりました。では次にいきます。「9. 直江津地区の賑わいづくり事業」について御意見をどうぞ。

祇園祭をポスター、マップでPRしたい。ということですが、金額が事業費の半分以上を占めているというところをどう考えるかというところがポイントになろうかなと思います。よろしいですか。

【田村利男委員】

花火はいいんじゃないですか。レルヒ祭とか観桜会で花火を上げているんです。だから花火はやってもいいと思います。

【田村雅春委員】

次年度以降の活動の見直しの連発花火について「花火大会時に河川敷等で有料観覧栈敷席を設け、その収入を次年度の打ち上げに充てることも関係機関等と検討していきたい」とあるが、関係機関とは協議会のことを言っているのか、祇園祭協賛会のことを言っているのか。今年はお金を取るけど、来年はどうするのか、ずっと支援事業で対応するのか。少し意味不明は文章かなと思います。全体を見るとすばらしいプレゼンテーションだと思います。

【泉委員】

40人くらい来た時に座る場所を確保したくて、祇園祭協賛会と商工会議所へお願いに行ったことがある。あの時は無料だったけど。

【町屋委員】

元々、花火を上げてきた企業にはスポンサー席みたいなものが準備されていたんです。

【増田会長】

それは、将来構想はどうですか。と質問してください。

【泉委員】

補助金ばかり頼りにしてはいけないからこういうことをしながら資金を集めたいということなんですよ。

【町屋委員】

応援イベントというのはどうしても出てきてしまうので、後でダブる部分が出てくると思うんですよ。後方の事業計画にも相談をしながら進めています。という話があって相談しているのに両方から上がってくるのはどうしてなんだろう。と思ってしまうというところですよ。

【増田会長】

資料を見ると団体が連携して応募しているんだろうなど、同じようなことが書いてあるから。

【町屋委員】

連携しているなら両方にお金を出すのはおかしいんじゃないですかってことです。

【中澤委員】

要するに違うことをやるんです。まだ話が煮詰まっていないから、時間的に余裕がなかったのです。

【増田会長】

他の皆さん、よろしいですか。

(意見なし)

では、次「10. 佐渡寒ブリ祭り事業」についていかがですか。

【田村雅春委員】

プロパンを使用しますよね。以前、プロパンの事故で死者が出ていますので、そういう点でこの事業に関してもきちんと安全管理を、きちんと専門家が作るようお願いしたい。

【泉委員】

プロパンの専門家はいます。その方に担当していただきます。

【増田会長】

質問をすると「専門家が来ます」って回答が来るでしょ。もし、何かあった時に専門家の配置が良かったのか悪かったのかがそこで検証出来るので、その質問は非常にいい質問です。皆さんが心配していると思います。

他に皆さん、よろしいですか。

【町屋委員】

これは、もう何回目ですか。見積もりを見ると、ブリの材料費だけで100万からかかるんですね。ブリ関係の販売でやっても原材料の6割くらい。そんなもんなのかと。判断に迷うところかな。と思いました。

【増田会長】

補助金が無くなれば収支性を持たせなきゃいけないということです。

【泉委員】

この事業について皆さんにお聞きしたいのですが、実は、集まっている人達の大半は直江津地区の人達です。2回目の宣伝費のところ、そこは割愛しなさいよ。という話があったのですが、私が話した時にはもっと広い範囲、長野県内の人達まで来てほしいと。そうすれば先程の6割の話じゃないですけど、もっといけると思うんですよ。

【増田会長】

それは、質問の中で、地元が定着したので広まるように工夫をしてというような方向性を出していけば来年のPRにつながる。

【町屋委員】

私も受益者負担にかなりうるさい方で受益者負担の中に、今までの案件もそうですが、講師料であるとか、会場費であるとかってというのは自分達でお金を払うのが妥当じゃないかと。でも、その事業が軌道に乗るまでの間にPR代とかそういう部分に係るお金をここでみてくださいよってというのは私の中では終始一貫して、逆にここでみる価値があると考えています。事業が軌道に乗る為には、きちんとしたビジネスモデルを作った上でバックアップをするというのは私の中では理想論なんです。

【増田会長】

そういうふうに地元に着してきたので他の地域に向けたPRを工夫してくださいという意見を出せばいいということです。

他ありませんか。

(意見なし)

では、次に行きます。「11. えちご・くびき野100kmマラソン直江津おもてなしプロジェクト事業」についていかがですか。

【田村雅春委員】

この事業はもう動いているんですか。

【増田会長】

資料に「直江津と五智の町内会長協議会の会長に共に活動し」と書いてあるんですがもう動いてるんでしょうかねという質問なんですけど。

【滝澤係長】

この団体については実行委員会の準備会ということで現在、活動されております。直江津地区、五智地区の町内会長協議会会長にはすでに了解をいただいて、準備会の委員の皆様が協議している最中です。

【増田会長】

はい。他はいかがですか。よろしいですか。

経費のところでは各団体の応援経費ってあるじゃないですか、ここの使い道は聞いていますか。

【滝澤係長】

応援経費につきましてはオール直江津を出すやり方として、開催者側もどのようにしたら大勢出て来てくれるか、どういった形がいいのか、というものを協議している最中ですが、ここに記載されている応援経費については目安の金額としまして、それぞれの町内会からおもてなしの提案をいただくと。各町内で掛かった経費を事業で負担するということです。商店街も同じです。

【増田会長】

はい。掛かった経費を負担しますということですよ。

【町屋委員】

マックスなんですか。

【増田会長】

基本的にこの考え方はそれぞれ1万円を限度という考え方なんです。

【町屋委員】

直江津紹介DVDっていうのはどんなものを作るんでしょうか。きちんとそういうものを見せてほしいと思うんですよね。

【増田会長】

事務局で聞いておられなければ質問票で聞いてください。

【滝澤係長】

事務局でお聞きしているのは、直江津に再度訪れたいような内容、写真等でフォトアルバムみたいな形だと聞いております。それについては実行委員会の中でどういったものが来ていただいた方に一番ふさわしいか協議していきたいとお聞きしています。

【増田会長】

他にありますか。

【泉委員】

当日は、ランナーは2,500人。13区全体でボランティアが3,500人。当日、6,000人の人間が動きます。九州で2県。四国で2県の方が来ていないだけで他は全部来ています。今までの経験ですと、当日、直江津のホテルはほぼ満室です。そういう状況で、せっかく直江津に来ていますので、しかも支援事業の話でいろんなものを作っているんですよ。だから、その人達を、金をかけて迎えるんじゃなくて、うまく利用出来ないかなと思っています。

【田村雅春委員】

この事業は直江津だけだよ。他にも可能性としてはあるんでしょうか。

【泉委員】

100kmマラソンっていうのは本部と13区とありまして、今まで、旧上越市の五智と古城しか通っていなかったんですよ。実は上越市そのものがランナーを迎え入れている感覚が無かった。13区の皆さんは何をやっているかという、手作りでおにぎりを作ったりとか、鍋を作ったりとかしてるんです。各地区の特色を出しておもてなしをやっているんですよ。それに準じたことをやっぱり直江津でもやらないと旧上越市の皆さんの認知度は低いなど。

【町屋委員】

今回の事業計画を見ると全部の町内をやろうとしてませんか。例えば直江津区は直江津区でワンコース、ツーコースでいいわけじゃないですか。

【泉委員】

13区の話は出ました。今、おっしゃったように37町内という話が出ました。37町内全部やるのかっていったら決してそうではなくて、直江津地区で言いますと、五智

担当の郷津の浜茶屋の所が給水所になります。船見公園は直江津地区、ときめき鉄道の前の直江津地区になります。国分寺の正門、そこは五智地区になります。今、上越のところと違うところは、13区の方は給水所があり、エイドがあり、マッサージもありくつろぎます。それに見合う分っていうのは旧上越市では金谷山しか作れないんです。直江津の方はどうするのかって言ったら、各給水所、エイドでもってそこに集結するような形になるんでしょうね。それと併せてお願いをしなきゃいけないのは、13区の方は、ほぼ山間地なんです。旧上越市は市街地を走るんです。そうすると交差点が非常に多い。ですから、安全のために誘導員が必要になる。なので、各町内からの協力って不可欠なんです。そういうことも含めたお話です。

【町屋委員】

聞いて初めて分かることは、出来るだけここに盛るべきだと思うんですよ。

【増田会長】

誤解が無いように言っておきますが、37町内と上げてあるけど20しか無かったら残りの17町内分の予算を他のところに回して使うよという発想はありませんから。必要なものは必要な項目に上がっていますから。そこは誤解の無いように。

他、よろしいですか。

(意見なし)

では、事務局から今後のスケジュールの説明をお願いします。

【滝澤係長】

—資料No.2 平成26年度地域活動支援事業 審査スケジュール

直江津区に係る 平成26年度地域活動支援事業に係る採点について

に基づき説明 —

提案の中のこの部分は採択出来ないというものがもしかしたらあるかもしれませんが。それにつきましては、特記事項に御記入いただきたいと考えています。不採択になってしまうと、その事業全体が不採択になってしまいますので、一番無難なのは不採択した中でこの報告については少し違うんじゃないかという協議をする為に、特記条項に御記入いただければ、6月4日の協議会で全体協議ができるかなと思っています。

提案を締切った段階で予算額の残額があります。次回以降の追加募集をするのであれば早いうちに事務局も周知したいと考えております。本日、追加募集をするということ

が分かれば最短で6月4日で採択し6月15日の地域協議会だよりで周知出来るかなと
考えております。もし、お決めいただければ準備も進められるので御協議いただければ
ありがたいです。以上です。

【増田会長】

ありがとうございました。滝澤係長が重要なことをおっしゃいました。これは認めら
れないという部分があったら特記事項に書いてくださいと。それから追加募集に関して
は前回の時に二次募集まではやりましょうと申合せをしてありますので、事務局で追加
募集の手続きを即していただくということによろしいですね。

(はい。の声あり)

他に、皆さんのほうでなにかありましたら。無いですね。

それでは以上をもちまして、本日の会議を終了します。ありがとうございました。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。